

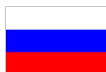
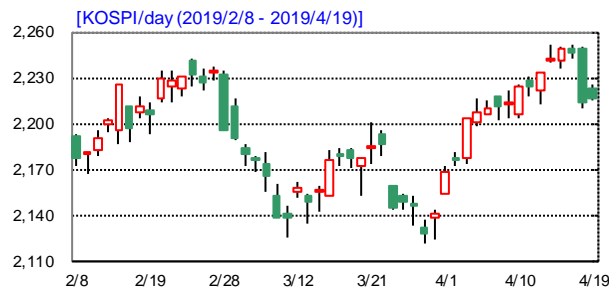


【韓国】 総合指数は週間で0.8%安と3週ぶり反落、今週は1-3月のGDPに注目

先週の動き/今週の展望

総合指数は週間で0.8%安と3週ぶりに反落。前週末の米株高を支えにした投資家のリスク選好で週前半は力強い値動きとなったが、その後に利益確定売りの勢いが強まった。週明け15日は筆頭株主による保有株売却が伝わったアジアナ航空が30%高とストップ高まで買われ、相場上昇をけん引。指数は16日まで13営業日続伸となり、連日で年初来高値を更新した。17日は14営業日ぶり小反落。前日までの13連騰で指数が5.7%上昇しており、利益確定売りが優勢となった。中国株の低調な値動きも重荷。18日は、サムスン電子が発売前に試験提供していた折り畳みスマホの一部に不具合が生じていた問題を受けて3%安と下落し、指数も1.4%安。19日は小反発した。今週は25日に1-3月期のGDP速報値が発表される。

▼指数チャート

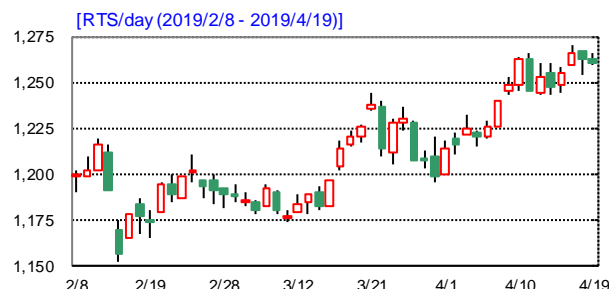


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.6%高と3週続伸、今週は欧米株の動向次第か

先週の動き/今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.6%高と3週続伸。欧州株高や原油・ルーブルの上昇、中国のGDPの上振れが好感され、指数は約1年ぶりに戻り高値を更新した。週明け15日は原油安や3月鉱工業生産の下振れを受けて下落してスタートしたが、その後は欧州株や原油相場の上昇に加え、中国のGDP成長率の上振れやルーブル高を背景に買いが優勢となった。17日には指数は終値で1265.51ドルと約1年ぶりの戻り高値を更新。EU圏のさえない経済指標やウクライナとの緊張関係の高まり、米国の追加経済制裁懸念などが上値圧迫要因となったものの、指数は週後半も下げ渋った。個別銘柄ではガスプロム、ノヴァテク、ノリリスク・ニッケルなど資源関連株が上昇。今週は主要企業決算を受けた欧米株の動向に左右される展開か。

▼指数チャート



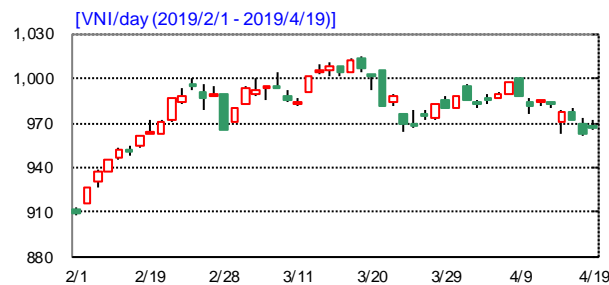
【ベトナム】 ベトナム指数は1.7%安と続落、今週は押し目買いが指数を押し上げるか

るか

先週の動き/今週の展望

VN 指数は週間で1.7%安と続落。世界的な債券利回りの上昇を背景に不動産株が売られ、指数を押し下げた。中国が発表した1-3月期のGDP成長率が市場予想から上振れるといった好材料はあったが、不動産株が軟調に推移し、相場の重しとなった。米10年債利回りが3月中旬以来初めて2.6%を上回ったことで米国では前週まで6週続伸した不動産株が大きく反落。ベトナム市場でも不動産開発の金融費用増加への懸念が強まり、時価総額上位のビングループが週間で2.7%安、ビンホームズが4.6%安と売りこまれた。不動産以外ではテクコムバンクが2.8%安、乳製品のビナミルクが2.0%安、サイゴンビール・アルコール飲料が1.5%安となり、指数を押し下げた。今週は不動産株などへの押し目買いが指数を押し上げるか。

▼指数チャート

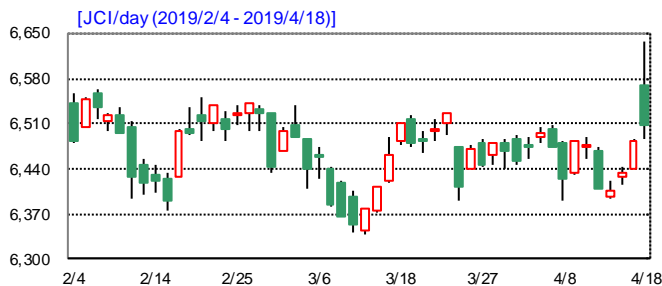


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.6% 高、現職ジョコ大統領の再選で一時 6600 ポイント到達

ジャカルタ総合指数は 3 日間の取引で 1.6% 高と反発。週初から 3 営業日続伸と堅調に推移した。15 日は 3 月の貿易収支が前月に続き 2 カ月連続で黒字だったことが好感され、指数は 4 営業日ぶりに反発。総選挙投票日のため休場となった 17 日を挟んだ 18 日は、現職大統領のジョコ・ウィドド氏が再選を決めるとの見通しを受けて金融株が買われ、指数は場中に一時 6600 ポイントを突破。その後に 6500 ポイントを割り込む水準まで売られる場面もあったが、終値ではこの水準を回復した。今週は 25 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 6.0% に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート

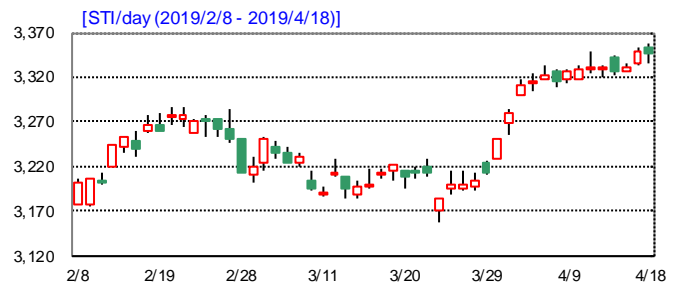


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.5% 高、今週は 26 日に 3 月の鉱工業生産発表

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 0.5% 高と 6 週続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 15 日は 3 月の非石油地場輸出がエレクトロニクス部門の低迷で前年同月比 11.7% 減と市場予想から大幅に下振れし、指数は 5 営業日ぶりに反落。一方、16 日は中国の 1-3 月期の GDP 発表を翌日に控え、市場での成長率に対する楽観的な見方の広がりを受けて買い戻されると、17 日は中国の景気減速懸念の後退を受けて終値で約 10 カ月ぶりの高値を更新した。ただ、18 日は反動で売られ、小幅に反落して連休前の取引を終えている。今週は 23 日に 3 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

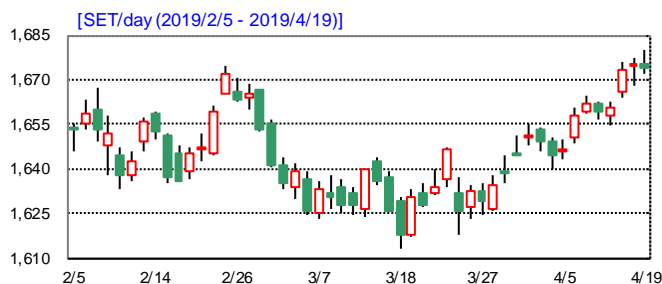


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8% 高、今週は 3 月の貿易統計に対する反応が焦点

SET 指数は 3 日間の取引で 0.8% 高と 3 週続伸。連休明けに続伸すると、その後は週末まで小幅なレンジでもみ合った。17 日は前日に発表された米原油在庫の減少を受け、NY 市場の先物価格が上昇した効果でエネルギー株が買われた上、中国の 1-3 月期の GDP、3 月の鉱工業生産と小売売上高がそろって市場予想から上振れたことが好感され、指数は続伸した。18 日には終値で約 5 カ月ぶりの高値を更新したが、19 日は 4 営業日ぶりに小幅に反落している。今週は 22 日発表の 3 月の貿易統計（通関ベース）に対する市場の反応が焦点になるか。外部要因では前週末に反発した原油価格の上昇が続けば好材料。

▼指数チャート

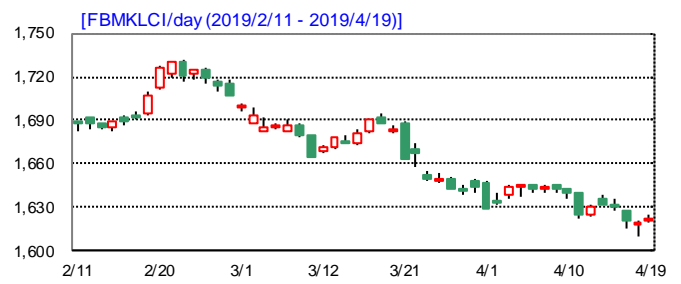


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5% 安、FTSE 世界国債インデックスの除外懸念で下落

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5% 安と 5 週続落。買い材料に乏しく、さえない値動きが続いた。週初の 15 日は前週末の NY ダウが反発した流れを引き継ぎ、小幅に続伸してスタート。一方、16 日はマレーシアが 23 カ国で構成する FTSE 世界国債インデックスの対象国から除外される可能性が浮上したことで米ドル高・リンギ安が進み、指数は反落した。その後も資金流出が止まらず、18 日まで 3 日続落。ただ、19 日は 17 年から中断していた首都の大型再開発計画「バンドル・マレーシア」を再開するとの政府発表が好感され、反発して取引を終えた。今週は 24 日に 3 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。